

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「わたし」（大沢美琴）は、母の響子と祖母の節子と三人で暮らしていた。母からの急な提案で、母の友人である加藤朱美と娘の堤下優菜、優菜の娘で美琴の同級生である野々花との二組の三人家族で共同生活を始めることになった。

暮らし始めて少したったある日の出来事である。

「えっ?」

四人同時に声が出た。

トゥルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル

家の電話が鳴っているのだった。家にある電話は一つだけ。みんな各々スマホを持っているから、そちらを使うことが多く、わたしが家電の音を聞いたのは今がはじめてだ。

「マジ?」

と朱美さんが言い、

「マジか」

と優菜さんが受けた。どうやら朱美さんと優菜さんも、この家の電話が鳴るのを聞いたのは、はじめてらしい。

トゥルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル

「誰が出る?」

優菜さんが、朱美さんを見る。

「あんた出なさいよ」

「やだよ。だって、なんて言ってるのよ。堤下? 加藤? 大沢?」

野々花が①あきれたように二人を見て、すっと、立ち上がって受話器を取った。わたしはちよつと A 込みして、様子をうかがっていた。

「もしもし」

べつに名乗らなくても問題はない。

「はい、そうです」

相変わらずの棒読みだけど、しっかりした対応だ。

「はあ? 警察?」

野々花の声にびつくりして、朱美さんと優菜さんと②顔を見合わせる。

「っていうか、あなた本物の警察官ですか? 詐欺じゃないでしょうね? だまされないですから。なにか証拠を言ってください」  
なんだかすごいことを言っている。

「大沢節子? 節子さん!」

「えっ」

大きな声が出た。大沢節子は、わたしのおばあちゃんに他ならない。

「節子さんの孫に代わります」

野々花が早口で言っ、わたしに受話器をよこした。

「もしもし」

B がうわする。

「わ、わたし、孫の大沢美琴です! お母さんは今、体調悪くて横になってるんで、わたしが聞きます! おばあちゃんがどうかしたんですか? はい、はい、そうです。は? なんですか? えええっ!? 事故!」

ガタンツと音がした。朱美さんと優菜さんと野々花が同時に立ち上がっていた。警察の話はこうだ。おばあちゃんが乗ったタクシーが事故にあった。今、おばあちゃんは、おばあちゃんと一緒に乗っていた友人と、治療をするため病院にいる。友人というのは鈴子さんだ。

「お母さんっ! 大変!」

お母さんの部屋を開けると、お母さんは、ふとんに横になったままはれぼったい目をこすった。髪の毛がボサボサで、メドゥーサみたいだ。おばあちゃんのことを伝えると、③短い悲鳴とともに起き上がったけれど、めまいがしたのかすぐに目頭を押さえて、また横になった。

「響子ちゃん、わたしが美琴ちゃんと病院に行くから心配しないで」

朱美さんが顔を出して言い、お母さんは、朱美ちゃんありがとう、と泣きそうな顔で手を合わせた。

朱美さんが、車を出してくれて病院へいそいだ。市内の病院だけど、ひどく遠くに感じられた。お昼におばあちゃんと一緒にイオンに買い物に行ったばかりなのに、こんなことってありえない。うれしそうに出かけていったおばあちゃんを思い出すと、胸が苦しくなる。

電話では、治療中だと言っていた。不安と心配で頭がいっぱいで、それなのに心はからっぽみたいで、よくわからない気持ちのまま、わたしは後部座席で④無意味に手をグーパーグーパーしていた。

こんなときに寝込んでいるお母さんが腹立たしいような気の毒どくなような、情けない気持ちが湧わきあがってきて、朱美さんがいてくれてよかったと心の底から思う。

「美琴ちゃん、大丈夫だからね。なにも心配することないよ。節子さんは大丈夫だからね。でもやっぱり心配だね。わたしも心配だね。でも大丈夫、大丈夫。心配ご無用！でもやっぱり心配だけど、絶対大丈夫だから！」

言っていることが支離滅裂だ。朱美さんも心配なんだ。そう思うと、ほんの少しだけ落ち着けた。

病院に着いて⑤飛び込むようになかに入った。どこ？おばあちゃん、どこ！

「おばあちゃんっ！」

病院のロビーにおばあちゃんの姿があった。ベンチに腰こしかけている。

「おばあちゃん！おばあちゃん！」

「あら、美琴。やだわ、朱美さんまで……」

おばあちゃんが、⑥困ったような笑顔をよこす。

「無事でよかったあ」

朱美さんが膝ひざに手をついて、大きく息を吐はき出した。

「おばあちゃん、手！」

おばあちゃんの左手首に包帯ほうたいが巻いてあった。

「ああ、これはちよつとぶつけただけだから大丈夫。それより、鈴子さんが脳なうしんとう起こしちゃって。今、休んでるの」

「その方のご家族に連絡は？」

朱美さんがたずねると、おばあちゃんは、

「鈴子さんね、天涯孤てんやこど独どなのよ」

と、首を振ふった。朱美さんは短くうなずいてから、とりあえず鈴子さんが回復するのを待ちましょう、と言い、

「それよりも問題はタクシーよ！運転手てんてんとこよ！つたく！」

と⑦鼻はなの穴を広げて、慌わただしく歩いていった。

「おばあちゃん、心配したよ。よかった、たいしたことなくて……」

声を出したら、涙なみだが出そうになった。おばあちゃんはいつだって、すこぶる健康で、これまで大きな病気やケガをしたことはない。

「ごめんねえ、迷惑めいわくかけちゃって」

手首の包帯いんたいが痛々いたいたしい。

「わざわざ来てくれて悪かったねえ。響子は、まだ横になってるのかい？」

「うん、だいたいよくなったとは言ってたけど」

「困ったもんだねえ……」

と□C□をひそめつつ、こんなときでもお母さんのことが心配なんだと思う。

おばあちゃんの手首は折れているわけではなく、打撲たぶくだそう。腫はれが引くまで湿布しつぷをして様子ようすをみるらしい。

しばらくしてから、鈴子さんが出てきた。顔色はよくなかったけれど、自分の足でしっかりと歩いてる。こめかみに貼はられたガーゼが痛々いたいたしい。

「節子さん、お待たせしちゃったわね」

「鈴子さん、どんな具合？痛いところない？」

おばあちゃんがたずねると、鈴子さんは、もう大丈夫と肩かたを持ち上げた。

「あ、あの、鈴子さん、こんばんは」

「あらあ、美琴ちゃん。ひさしぶりだねえ」

わたしの顔を見て、鈴子さんが笑顔になる。

「すっかりおねえさんになっちゃって。道で会ってもわからないねえ」

「いえいえ……」

こういうとき、なんて返せばいいんだろう。小学生のころは、なにも考えずに鈴子さんとタメ口で話してたっていうのに。中学生ってほんとめんどくさい。

「じゃあ、わたしは帰るわ。とんだ災難さいなんだったわね。節子さん、今日は本当にどうもありがとう。またゆつくりと」

鈴子さんが帰ろうとしたとき、ちょうど朱美さんが戻もどってきた。鈴子さんと簡単な挨拶あいさつをかわす。

「朱美さん、美琴、ちよつといいかしら」

帰ろうとしたところ、おばあちゃんに声をかけられた。

「わたし、今日は鈴子さんの家に泊とまらせてもらおうと思って」

「えっ?」

「やだ、節子さん。なに言ってるのよ。わたしだったら大丈夫。むしろ、来られたほうが困るわ」

鈴子さんが笑う。

「でも……」

おばあちゃんは鈴子さんのことが心配のようだった。一人暮らしたからなおさらだろう。

「じゃあ、鈴子さんがうちに来ればいいじゃない」

朱美さんが言う。

「うん、それがいいよ」

わたしも賛成だ。

「鈴子さん、ぜひそうして。わたしの部屋にお布団敷けばいいから。今日だけでもお願いよ」

鈴子さんはしばらく遠慮していたけど、おばあちゃんの強い勧めで、結局うちに泊まることになった。

（椰月美智子『みかんファミリー』より）

問一 A C にあてはまる語としてそれぞれ適切なものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 眉 イ 腕 ウ 腹 エ 尻 オ 口 カ 声

問二 線部①「あきれたように二人を見て」とありますが、この時の野々花の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 家の電話が鳴っているのに、どう名乗れば良いかわからず、あたふたしている二人を見て悲しくなっている。

イ 家の電話が鳴っているのに、自分から出ようとせず、たがいに押し付けあっている様子を見てうんざりしている。

ウ 携帯電話だと誰から電話がかかってきたのかわかるが、家の電話はわからないから電話に出るのが怖くなっている。

エ 携帯電話しか使わないので、鳴った家の電話の音に驚いて電話に出ようとしない二人を見て、あわれに思っている。

問三 線部②「顔を見合わせる」とありますが、なぜ朱美さんと優菜さんは「顔を見合わせ」たのですか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 思ってもみないところで警察から連絡があったので、何があったのだろうかと二人とも驚き、たがいに確認したかったから。

イ 野々花の「警察?」という言葉に優菜さんも朱美さんも驚き、何か悪いことをしたのかと相手に疑いをかけたから。

ウ 警察からの電話は詐欺だと思っていたため、「絶対にだまされなぞ」というおたがいの意思を確認したかったから。

エ 偽の警察からの電話を見抜いた優菜さんと朱美さんは、野々花に詐欺だと教えるために合図を送りたかったから。

問四 線部③「短い悲鳴」とありますが、その時の「お母さん」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒り イ 悲しみ ウ 喜び エ 驚き

問五 線部④「無意味に手をグーパーグーパーしていた」とありますが、この時の美琴の気持ちを四十字以内で答えなさい。

問六 線部⑤「飛び込むようになかに入った」のはなぜですか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「おばあちゃん」だけでなく、家で寝ている「お母さん」のことも心配なので病院でゆっくりする時間がないから。

イ 事故にあった「おばあちゃん」の死に目に会いたいと思ひ、いち早く病室へ向かわなければならぬから。

ウ 「おばあちゃん」が治療を受けていると聞いており、早くその治療の手伝いをしなければならぬから。

エ 事故にあった「おばあちゃん」の容態がわからず、一刻も早く「おばあちゃん」に会いたかったから。

問七 線部⑥「困ったような笑顔をよこす」とありますが、この時の「おばあちゃん」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 孫や娘だけでなく、みんなに事故のことを内緒にしていたのを知られたので恥ずかしい気持ち。

イ 孫や娘にしか事故のことを言っていないのに、みんなが病院に来たことにうれしくなった気持ち。

ウ 孫や娘だけでなく、みんなに事故の心配をかけてしまったことを申し訳なく思う気持ち。

エ 孫や娘にしか言っていないのに、孫以上に自分のことを心配してくれてよろこぶ気持ち。

問八 線部⑦「鼻の穴を広げて、慌ただしく歩いていった」とありますが、朱美さんはなぜこのような行動をとったのですか。三十五字程度で説明しなさい。

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

食物連鎖の中で植物は「生産者」と言われる。太陽の光を使って光合成を行い、生きるのに必要な糖分を作り出す。そして、土の水と養分から、さまざまな栄養素を作り出すからである。

これに対して動物は消費者と呼ばれる。動物は自ら栄養分を作り出すことができない。そのため、植物が作り出した栄養分をもらって生きているのである。

草食動物は、植物を食べて植物の作り出した栄養分を摂取している。そのため、草食動物は一次消費者と呼ばれる。これに対して肉食動物は、草食動物を食べることで、Xに植物が作り出した栄養分を摂取している。そのため、肉食動物は二次消費者と呼ばれる。そして、消費者である動物は生産者である植物が作り出した養分を消費しているのである。

生産者である植物は、消費者である動物に食べられる一方である。それでは、食べられる一方の植物は弱い存在なのだろうか。自然界はYと言われる。強い生き物が弱い生き物を食う。この食う食われるの関係は、①食物連鎖と呼ばれる。

A、アフリカのサバンナでは、草原の草を草食動物のシマウマが食べ、シマウマを肉食動物のライオンが食べる。

もともと、食物連鎖はこのような単純なものばかりでなく、複雑なものも多い。草の葉をバッタが食べ、バッタをカマキリが食べる。B、カマキリをカエルが食べ、そのカエルをヘビが食べて、ヘビをタカが食べる。水の中の生態系でも同じである。植物プランクトンをミジンコなどの動物プランクトンが食べる。こうして、自然界は食う食われるの関係でつながりあっているのである。

この食う食われるのスタートとなるのが、植物である。食物連鎖は、草食動物が植物を食べるところから始まる。つまり、②植物は食物連鎖の底辺に位置しているのである。

C、本常に植物は、自然界でもっとも弱い生き物なのだろうか。

食う食われるの関係は、食物連鎖のピラミッドで表される。植物は、ピラミッドの底辺の存在である。草食動物は、植物の上の存在である。そして草食動物を食べる肉食動物はその上になる。そして、その動物を食べる動物がその上というように、ピラミッドは積みあがっていく。

しかし、よく見るとピラミッドが上に行くほど、三角形が狭まっていくのがわかるだろう。生存できる生き物の数は、エサの量によって決まる。底辺にある植物の量が多ければ多いほど、草食動物の生息数は増える。そして草食動物が増えれば、それを食べる肉食動物も増えることができるのである。逆に植物が減ってしまえば、草食動物も減り、肉食動物も減ってしまう。

強いと言われるピラミッドの上位にいる生き物は、実はピラミッドの下にある生き物に依存しているのである。

植物は動物がいなくても生きていくことができる。しかし、すべての動物は植物がいないと生きていけない。

ピラミッドの上に行けば行くほど、その生存基盤は危うくなっていくのである。

どんなに強い動物も、食わなければ生きられない。強いと言われるトラやワシは、どうだろうか。食物連鎖の上にいる強い生き物のほうが、絶滅の恐れがあるくらい減ってしまっている。もしかすると、ピラミッドの底辺にいる植物が、一番、強いかも知れないのである。

そうは言っても、植物は食べられる存在である。

ピラミッドを支える植物のほうが強いのだ、と強がって見ても、食う食われるの関係では、植物は食べられる一方である。

植物は、どのようにして草食動物から身を守れば良いのだろうか。

その、対抗手段の一つが、毒を持つことである。前章で紹介したように、被子植物がさまざまな毒成分を持ったことは、恐竜を衰退に追いやった理由の一つであるとされている。

一方、哺乳類は、③植物が発達させた毒成分に対する能力を身につけた。まずは、毒成分を食べて死んでしまわないように、いち早く毒を認識する必要がある。

それが味覚である。

私たち人間も哺乳類である。私たちは、植物が持つ毒成分を口に入れると、舌が感知して、辛味や苦味を感じる。そして、毒を飲み込むことなく、吐き出すことができるのである。

味覚は、けっして美味しい食べ物を味わうために発達したものではない。体にとつて安全で栄養価が高いものは、甘味や旨味があり、体に危険なものは苦みや辛味がある。また、腐ったものは酸味がある。こうして、食べ物の危険度をいち早く判別するために味覚があるのである。

ほかの動物たちが、どのような味覚を持っているかはわからないが、同じように体に良いものは美味しく、危険なものは心地の悪い感じがあるのだろう。

④もつとも、動物が味覚を獲得することは、植物にとつても都合の良いことであった。

せっかく毒で身を守ろうとしているのに、体の大きい動物が毒に気が付くことなく死ぬまで食べ続けたとしたら、どうだろう。天敵である哺乳類は最後には命を落としてしまうとしても、それまでには、かなりの量の葉を食べられてしまうことだろう。これでは、被害が大きい。

植物にしてみても、動物を殺してしまいたいわけではない。それよりも、ひと口、口に入れた時点で食べられないと判断して、食べる

のをやめてくれた方が、植物にとっては都合が良いのである。  
もしかすると、動物が苦味として毒を認識する機能を進化させる一方で、植物の方も認知されやすい物質を持つように進化していったのかも知れない。

（稲垣榮洋『植物はなぜ動かないのか』より）

問一 ————  X にあてはまる語句として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 複合的      イ 直接的      ウ 間接的      エ 一方的

問二 ————  Y にあてはまる四字熟語を漢字四字で答えなさい。

問三 ————  A  B  C にあてはまる語としてそれぞれ適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば      イ つまり      ウ しかし      エ そして

問四 ———— 線部 a「基盤」・ b「衰退」の意味としてそれぞれ適切なものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物事の原因を知ること。      イ 物事を成立させる土台のこと。  
ウ 積極的に物事に取り組むこと。      エ 組織として体制が弱いこと。  
オ 勢いや活力が弱まること。      カ 物事の動作や決断が遅いこと。

問五 ———— 線部①「食物連鎖」の特徴を説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動物は植物が生み出す栄養分によって、生きることができている。  
イ 動物と植物はたがいに栄養素を作り出し、共存することができている。  
ウ 一次消費者と二次消費者の関係性は、生物によって変化することがある。  
エ 食う食われるの関係は複雑であり、バッタがカマキリを食べることがある。

問六 ———— 線部②「植物は食物連鎖の底辺に位置しているのである」とありますが、それと同じ内容の表現を一文でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問七 ———— 線部③「植物が発達させた毒成分に対する能力」とは何ですか。四十五字以内で説明しなさい。

問八 ———— 線部④「もともと、動物が味覚を獲得することは、植物にとっても都合の良いことであった」とありますが、それはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容と合っているものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 植物が減ってしまうと、すべての動物は生きていけなくなってしまう。  
イ ささまざまな生物の中で、動物だけが生きていくための進化を続けている。  
ウ 哺乳類の特徴は味覚を持つことであり、その中に人間も含まれている。  
エ やがてトラやワシは絶滅すると言われており、それらの解決策を考える必要がある。  
オ 植物が「生産者」と言われるのと同様に、動物も「生産者」と呼ばれる場合もある。

三 次の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 視聴者の意見をハンエイする。
- ② 彼女は命のオンジンだ。
- ③ イタる所に花が咲いている。
- ④ ヨクアサには雪がとけていた。
- ⑤ コウチャの葉を輸入する。
- ⑥ シユウキヨウの歴史を学ぶ。
- ⑦ カプシキ会社を設立する。
- ⑧ イチヨウの具合が悪い。
- ⑨ ジョウヤクを改正する。
- ⑩ 望遠キヨウで星を見る。
- ⑪ 秒針が止まった。
- ⑫ 郷土料理を食べる。
- ⑬ 話の大筋を理解した。
- ⑭ 成功を収める。
- ⑮ 彼は純粹な人だ。

問題は以上です。